# 2006 ASTCアジア選手権チャユグアン大会
# 日本代表チーム、メダル10個を獲得

## 選手権優勝は女子上田藍、男子田山寛豪

8月12日（土）、13日（日）、中国・チャユグアン市で2006ASTCアジア選手権が行われた。チャユグアン市でトライアスロンが行われるのは2回目で、標高1500mを超える高地であり、かつシルクロートの東の起点に近いところで、乾燥した高温の土地である。日本代表チームは、この環境に備えて長野県で高地トレーニングを行い、レースに臨んだ。

13日（日）午前10時45分スタートの女子は、スイムで古谷あかね（トヨタ車体）が抜け出して、忽那静香（日東紅茶・TEAM KEN ‘S・A&A）が追う展開に。バイクに入ると、上田藍（グリーンタワー・稲毛インター）、関根明子（NTT東日本・NTT西日本）、大松沙央里（トヨタ車体）、下村真紀（NSI）を加えた日本勢に、シン・リン、ワン・ホンニ、テン・チャンチャンの中国勢の9名で、バイク中盤に第1パックが構成され、スピードを上げてトランジションへと入った。ランでは、この9名が一斉にスタート。序盤から積極的に前に出た上田が、アジア選手権初優勝を飾った。2位には、ランで好走した大松が2位、体調不良にもかかわらず頑張った関根が3位となり、日本勢がメダルを独占した。

午後1時45分のスタートとなった男子は、田山寛豪（チームテイケイ）が飛び出すと、平野司（NTT東日本・NTT西日本・Weider）がすかさず後を追う。スイムが終わってみると、ダニール・サプノフ（カザフスタン）とザン・イミン（中国）、スイムの先頭パックに残っていた。結局バイクでは、平野が後退する中、田山、サプノフ、ザンの3名で第1パックを形成して、終始レースをリードした。ランに入ると、ザンが後ろへ下がりはじめ、田山とサプノフの一騎打ちの様相を呈し始めたが、リードを保った田山が、アジア選手権初優勝となった。2位はサプノフ、3位はザン。西内洋行（西京味噌）が5位となった。

15000m**の高地にあるチャユグアンでのアジア選手権**

**日本選手同士の勝負を予感した上田田**

「標高の高いレースだったので不安だった」と語る上田は、「バイクで日本選手6名、中国選手3名となり、中国選手がシン・リンを逃がすことを考えていたようだったので、何とか阻止しようとした」と、バイクでの作戦を振り返った。結果として、バイク終了時には、上記の9名が一斉にトランジションに飛び込み、同時にランスタートしたのだが、「そうなると、日本選手同士の勝負になることは分かっていました」と上田は言う。「ほかの選手とペースをつくるつもりで走った」という上田に、成長の跡を感じた。

NTT東日本 NTT西日本
Kyorin JAL arena weider asics Kodak
AIU TAIHEI CASIO resorttrust JCB LEOPALACE RESORT
日刊スポーツ Gakken 文化総合研究所

社団法人日本トライアスロン連合 東京都渋谷区渋谷2-9-10 青山キングビル3F
TEL：03-5469-5401（代） FAX：03-5469-5403 Email：jtuoffice@jtu.or.jp URL：http://www.jtu.or.jp/

# 2006 ASTCアジア選手権チャユグアン大会

# 日本代表チーム、メダル10個を獲得

## ジュニアでも女子は、エリートに続いてメダル独占

また、同日午前中に行われたジュニアのレースは、女子では伊藤弥生（ウイングスTC）が初優勝。「ジュニア最後の年なのでねらっていた」と語った。ジュニア男子では、原田雄紀（ヴェルディ東京）が3位に食い込み、「バイクでうまく追いつけた。カザフスタンの二人は速かった」とコメントした。

前日には、速報でお伝えしたとおり、田中敬子（NTT東日本・NTT西日本・スカイタワー58）がアンダー23で優勝している。これで、日本代表チームは合計10個のメダルを獲得したことになる。

なお、レースの模様はフォトギャラリーでご覧いただけます。

人造湖の2号湖に向かって、スイム2周回目の飛び込み

独走態勢に入る田中

ランで追い上げて初優勝の伊藤

バイクで粘って追い上げた原田

### 目標までの通過点の一つをクリアと田山

「この勝利は目標の通過点の一つ」と切り出した田山は、北京オリンピックの前段階としての優勝にも「当たり前」という表情だった。レースは、バイクでサプノフ（カザフスタン）とザン（中国）と3名で逃げる体制となったが、「中国の選手は怖くなかった。サプノフはバイクをきれいに踏んでいた」と冷静な答え。「北海道の士別でのトレーニングと、志賀高原で行った高地トレーニングが効果を現した」と喜んだ。

今後の予定は、スイスのローザンヌで行われるITU世界選手権で、それにむけて、日本に帰り次第、すぐにトレーニングを開始するそうだ。

田山選手の今後に期待したい。

NTT東日本 NTT西日本
Kyorin JAL arena weider asics Kodak
AIU TAIHEI CASIO resorttrust JCB LEOPALACE RESORT
日刊スポーツ Gakken 文化総合研究所

社団法人日本トライアスロン連合 東京都渋谷区渋谷2-9-10 青山キングビル3F
TEL：03-5469-5401（代） FAX：03-5469-5403 Email：jtuoffice@jtu.or.jp URL：http://www.jtu.or.jp/